

富山経済同友会

会報

2025. 9月
No. 326



新会員歓迎オリエンテーション（8月20日）

CONTENTS

- | | |
|----------------------------|---|
| ● 7月会員定例会 …………… 2 | ● 第1回観光戦略委員会 …………… 13 |
| ● 【講演録】7月会員定例会：平田 オリザ 氏… 2 | ● 第1回企業経営委員会 …………… 13 |
| ● 8月会員定例会 …………… 7 | ● 課外授業講師派遣 …………… 14 |
| ● 第1回日本海沿岸地域経済同友会サミット… 8 | ● 小・中・県立学校3年次校長研修会 …………… 18 |
| ● 新会員歓迎オリエンテーション・懇親会 … 9 | ● 会員の入退会 …………… 18 |
| ● 富山県との意見交換会 …………… 10 | ● リレーエッセイ ⁽¹²⁷⁾ （白川 友之 氏）………… 22 |
| ● 第1回地域創生委員会 …………… 11 | ● 活動報告 …………… 23 |
| ● 第1回デジタル推進委員会 …………… 12 | ● 今後の予定 …………… 25 |
| ● 第1回文化芸術委員会 …………… 12 | ● わが青春の1枚（高野 二郎 氏）………… 26 |

文化の力で「心に刺さる」魅力あるまちづくりを 平田オリザ氏講演 — 7月会員定例会 —

7月会員定例会を7月24日(木)、オークスカナルパークホテル富山で開催し、劇作家・演出家の平田オリザ氏が「本気の文化によるまちづくり」と題して講演した。今回は文化芸術委員会が主管し、会員約110名が参加した。

平田氏は、冒頭、人口減少問題の本質に触れ、若者が地元に戻らない原因は、地元で職がないからではなく田舎がつまらないからであり、戻りたくなるまちづくりが必要であること、また、

「女性が子どもを産んでも働ける社会」ではなく「産んでも人生を楽しめる社会」こそが必要であると述べた。更に、今注目されているインバウンド観光については、今後リピーターを増やすためには、参加体験型やハイカルチャー、ハイスペックな「文化観光政策」が必要であると述べ、これらの「心に刺さる」魅力あるまちづくりには、アートや食、スポーツも含め、広い意味での文化が果たす役割が大きいと話した。

7月会員定例会 (2025. 7. 24) 講演録

「本気の文化によるまちづくり」

劇作家・演出家 平田 オリザ 氏



(プロフィール)

劇作家・演出家
芸術文化観光専門職大学学長／青森県立美術館館長／
劇団「青年団」主宰／江原河畔劇場館長
1962年 東京生まれ。
1995年 『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞受賞
2019年 『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞受賞
2011年 フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ
受勲
2019年より兵庫県豊岡市在住。豊岡演劇祭フェスティバル・ディレクターもつとめる。

◆ 人口減少問題の本質

講演で人口減少対策話の依頼が多くなって見いだした事象の一つがスキー人口の減少です。平成の20年間で3分の1に激減、増えたスノボ人口を合算しても半数に至りません。趣味の多様化や温暖化、若者の可処分所得減少もありますが、最大の理由は若者人口の減少です。同期間で1,000万人、さらに今、500万人が減っています。

どんな学者も、若者が減ったからスキー人口が減ったと言いますが、ひねくれた劇作家は逆に、スキー人口が減ったから若者が減ったと見

ます。私たちが学生生活を送った1980年代、スキーは男性が女性を1泊旅行に誘える最も合法的な手段でした。今やテニス人口も海水浴人口も減りました。要は、こうした出会いの場がなくなったということです。まちからジャズ喫茶やライブハウスなどは消え、行政が慣れない婚活パーティーをしているのが現状です。ショッピングモールは、ご家族連れがコスパよく過ごす場所です。

都市の課題はライフ・ワーク・バランスで、待機児童の解消はその典型ですが、地方は非婚化、晩婚化です。恋愛も結婚も出産も子育ても

KOUENROKU

全て個人の自由で、内面の問題ですから、対策そのものに無理があるのです。独裁性の強い国家・ハンガリーを例にとると、国が特定の年齢の新婚夫婦に対して無利子で400万円を融資します。子どもが生まれると、1人目は無利子で返済を3年間猶予、3人目には残りのローンを全額免除する少子化対策です。ただし、最初の5年で生まれえない場合は、利子をつけて返済しなければなりません。

これは日本では不可能でしょう。生まれなかったご家庭の悲しみは無視されるのです。所詮無理なことを政策で解決しようと霞が関の連中が考えているから、いつまでも問題は解決しないのです。つまり、マインドを変えていく必要があるということです。

◆ 若者が戻らない理由

大学教員25年目ですが、地元に関がないので帰らないというゼミ学生はおりません。それは、雇用は必要条件ですが、十分条件ではないからです。都会で刺激的な毎日を過ごす学生は、田舎がつまらないと言います。戻りたくなるまちづくりがポイントです。

従来の人口減少対策は高卒男子の囲い込みでした。工場団地を造って企業を誘致すれば、地方から出稼ぎに行かなくても済みます。これが大成功したために、多くの自治体が思考停止に陥りました。平成の30年間に専門学校を含む高等教育機関、1990年代以降は女性の4年制大学への進学率が特に上昇しました。そして、かつて地方の18歳の男子が親から言われた「車を買ってやるから残れ」と、都会で楽しむ22歳男女への「富山に戻ってくれ」では、問いかけの質が違います。女子は短大卒業後、地元で就職して三、四年すれば寿退社で結婚、出産してくれる。政策決定者の頭の中は、男を囲い込んでおけば女はついてくるという昭和の男性目線のままです。これを太田裕美さんの歌をもじって

「『木綿のハンカチーフ』シンドローム」と私は呼びますが、だから特に地方は変わらないのです。

東京の子育て世帯の7割は地方移住を考えるようですが、東京への一極集中は収まりません。そこで、来る理由ではなく、来ない理由を潰す必要があります。雇用面で若者は、地方は自分に合う仕事がなく、東京にそれが見つかる夢があると考えます。移住希望者が地方に下見に来た際のポイントは図書館です。絵本の充実は重要で、文化政策の顔が貧弱な自治体は除外されます。盲点は、習い事ナンバーワンのスイミングスクールの有無です。

中国創研（中国電力のシンクタンク）は昨年、若者の働き先と住居に関する面白い調査結果を発表しました。大学が集中する広島に来た島根や鳥取の学生は、就職の選択肢は都会か地元か広島かの3つですが、6割は住む場所を漠然と決めて就職先を探します。希望企業で住む場所を決めるのは2割だそうです。つまり人材確保は、よほどの企業以外は単体で頑張っても難しく、官民を挙げてまちの魅力度を高める必要があるということです。

◆ 産んでも楽しめる社会、

産んだら楽しい制度

政府は「女性が子どもを産んでも働き続けられる社会」を標榜しますが、「働いて産めってこと？」と苛立つ方もいます。「産んでも人生を楽しめる社会」こそが必要です。

例えば、この4月、青森県立美術館の館長に就任して最初に行ったのが、東北の県立美術館で初の託児です。子育て中でも、アートが好きな方はゆっくり鑑賞したいからです。享受していた文化的生活を女性だけに放棄させるのであれば、産まなくなるのは当然です。

日本の子育て支援はよい水準になりましたが、お金がもらえるから子どもを産む人はいません。

マインドの問題であり、産んだら楽しい制度をつくる必要があります。

その先進自治体が岡山県の奈義町です。鳥取との県境にある6,000人弱の町ですが、合計特殊出生率2.95の「奇跡のまち」と呼ばれ、岸田前総理も訪問するなど話題になりました。

岡山県北部は車社会で、お隣の人口10万の津山市から30分圏内の奈義に子育てや結婚でどんどん移り住みます。その要因は、きめ細かい子育て支援と教育改革です。

例えば町中央部のチャイルドホームは、映画や美容院へ行くのでも、1人1時間300円で預けられます。その理由が厳格でないのが他自治体との大きな違いです。預かる側も子育てが一段落した世代の方で、昔ながらの「持ちつ持たれつ」を行政が制度化しました。

A L Tの数を比較しますと、全国の平均は300人に1人ですが、奈義は小中学校の各学年50人に1人ずついます。また、農村歌舞伎を守ってきた奈義の小学校3年生全員が学校でこれを経験します。町役場の職員である歌舞伎専門員2人が指導に当たり、幼稚園から高校まで、希望者は歌舞伎か太鼓がただで習えます。磯崎新先生が設計の図書館と美術館があり、隣接スペースにはイタリアンレストランを町が誘致し、相乗効果が出ています。

もう一例が北海道の東川町です。「写真文化首都」の銘板を役場に掲げるように、高校生の全国大会「写真甲子園」を30年以上守るなど、強いシビックプライドがあります。

人口は1950年の1万人をピークに、90年代には6,000人台に減少しましたが、今は8,000人台に回復しています。その理由も奈義と同じで、隣市（旭川）からの若者の移住です。

東川は「家具のまち」でもあり、デザイナーが全国から移住します。旭川の若者は、おしゃれなテーブルと椅子のある東川のカフェに来てデートします。子どもが生まれると、その子の

名前が入った「君の椅子」がプレゼントされます。こうした「心に刺さる」政策がないと、いくらお金を出そうが、若者は移住しません。

両例のポイントはJターンで、Iターンは少数です。奈義や東川で3人目、4人目を産んでくださるので、都市間での人口の取り合いとは意味が異なります。

◆ 「世界と出会う」豊岡に

兵庫県北部の但馬地方は3市2町から成る人口15万の過疎地域で、天空の城「竹田城」（朝来市）や「夢千代日記」の舞台・湯村温泉（新温泉町）など、観光資源は豊富です。中でも豊岡市は7万5,000人、旧1市5町が合併して兵庫県最大の面積となった市です。

まず豊岡を有名にしたのがコウノトリの再生です。一度絶滅しましたが、人工ふ化から自然放鳥に進める過程で、農家と協力して無農薬、減農薬の田んぼを広げ、餌となる水生生物を住みやすくしました。そこで育ったお米を「コウノトリ育むお米」とブランド化することで、海外で非常に高い値段で売れます。同市の言う「環境と経済の両立」です。

次は文化です。関西有数の温泉地・城崎は、昔ながらの本造3階建ての町並みがインスタ映えで関西の女子大生卒業旅行のメッカとなり、インバウンドもこの5年で40倍です。

この旅館街の端にあった城崎大会議館(1,000人収容のコンベンションセンター)は年に20日しか利用されない典型的なお荷物施設でした。これが県から豊岡市に払い下げられ、当時の市長はダンスカンパニーや劇団への貸出しを提案しました。たまたま文化講演会に呼ばれた私が建物に案内されて発した言葉を契機に、同施設リニューアル諮問委員会の座長となり、城崎国際アートセンターに改築されました。演台などを取り払うと、帝劇の舞台が入るほどの巨大な稽古場に。6つのスタジオ、アーティストが最

KOUENROKU

大25人まで泊まれるレジデンス施設、キッチン、カフェテリアなども整備しました。施設は初年度から330日稼働、毎年二十数か国から100件近い申込みがあり、十数団体を選びます。アーティストには但馬の子どもたちに教育活動をしていただきます。「このまちで、世界と出会う」、そして「コウノトリも住めるまち」には「アーティストも住めるまち」も加わります。

◆ 芸術文化観光専門職大学が開学

芸術文化観光専門職大学が2021年4月に開学しました。学年定員80人、全学320人の小さな県立大学ですが、4年制大学のない但馬には誘致が悲願でした。

豊岡市の出生数は年間約350人です。その7割は一度外に出ると推測されますので、20年後の二十歳の人口は約100人。大学には留学生も入れて学年定員の80人が来ますから、同年の人口はほぼ倍になります。豊岡市の総合計画では、学生の4割が地元に残れば人口減少はほぼ解消、2割でもよい影響があるとしています。今年、本学初の卒業生は15%残りました。また本学は、地方ほど欲しがる女子の割合が85%で、全国から集まります。

学生募集を停止する大学が多い中、こんな過疎地で大丈夫なのかと市議会に呼ばれて怒られました。しかし開学時の平均倍率は7.8、この5年でも4～5倍という、日本で最も人気のある公立大学の一つになりました。競合大学がないので、ほぼ全員が第1志望です。

演劇とダンスの実技が本格的に学べる公立大学は日本初です。他先進国には国立大学に演劇学部、国立の演劇学校があります。一方、東京藝大には演劇学部はなく、音楽と美術の学部だけでしたので、開学は演劇界の悲願でもありました。もう一つの特徴が「観光」という名称が入った初の公立大学です。なぜ観光とアートなのかとよく聞かれますが、アジア諸国でも文化

政策と観光政策は一体型で行います。日本だけが文化庁は文部科学省、観光庁は国土交通省と別々でやっているの、一体型の政策ができないのです。

◆ 文化観光政策のポイント

今日本はインバウンドで大変潤っています。一番の外的要因は円安と東アジアの経済発展で、中国、東南アジアには10億人近い中間層が生まれつつあります。この層が初の海外旅行先として安くて近い、安心安全な日本を選びますが、課題はリピーターです。富士山を何度も見たい人はあまりいませんから、食べ物やスポーツも含めた参加体験が重要になります。ドイツ・ロマンチック街道の旅のようなストーリー性、そして大谷翔平さん目的だけでアメリカに行くように、必ず爆買いよりもコンテンツを楽しむ時代になります。

こうした観光を「文化観光」といいますが、日本が一番弱いジャンルです。ブロードウェイのように、家族で安心してミュージカルを楽しめる場所が足りません。

ウィーン・オペラ座は、ソリストの喉を休ませるため、演目が毎日違います。それは、同じ演目を行えば数日の空きが生じますが、その間に高級ホテルでの宿泊や食事、お土産で最低でも1日約5万円は落とす音楽好きの富裕層の観光客が、同じく良質のオペラを上演するローマやパリへ簡単に去ってしまうからです。オペラ座は2,000人収容です。直接消費だけで1億円、年間250ステージで250億円を創出します。そこにホテルやレストランでの雇用、消費も生まれますから、文化観光政策が大切になるわけです。

観光学では、昼と夜で消費は7～10倍違うというデータがあります。「ナイトタイムエコノミー」、要はナイトカルチャー、ナイトアミューズメント、夜の時間帯の文化活動が充実していなければ宿泊してくれません。また、昔は男

性中心の旅行でしたので、観光地のそばに歓楽街があればよかったのですが、今は家族で旅行しますから、一緒に楽しめる参加体験型やハイカルチャー、ハイスペックのものがようになります。

但馬の課題も同じで、城崎温泉周囲の観光地はあまり訪れませんし、1泊2食2万円の旅館モデルも限界です。カニは有名ですが、水産資源なので取り放題とはいきません。

そこで必要なのは昼のスポーツと夜のアートです。温泉だけでは退屈なので、昼は竹野でシーカヤック、氷ノ山で登山、神鍋高原で熱気球体験、夜はノンバーバルの子ども向けミュージカルなどを組み合わせます。これが国際的なリゾートになる必須条件です。

◆ 国際演劇祭開催へ

合併した豊岡市は施設も多く、機能を水平分業しました。例えば鑑賞事業の永楽館は、大ヒット中の映画「国宝」のロケで使われ、聖地巡礼で人気ですが、片岡愛之助さんが毎年秋、歌舞伎を1週間ほど上演します。市民プラザは交流でワークショップスペースに利用、先述の城崎国際アートセンターでは作品創造、また江原にあった旧町役場を買い取って150席の小劇場も造りました。こうして環境が整ったので、豊岡演劇祭を始めました。

演劇祭で最も有名なのがフランスのアビニオンです。正式招待演目は約30ですが、フリンジという自由参加型の大道芸などのアーティストが世界中から集まり、1か月で2,000の演目が上演されます。そこにプロデューサーや芸術監督が訪れ、お気に入りを引き抜く見本市的な性格も持ち合わせます。

豊岡演劇祭は、アジアのハブになるようなフリンジ型の演劇祭を狙います。成功の要件は3つです。1つ目は、正式招待演目が開催できる劇場ですが、先述のとおり、様々整っています。

2つ目は宿泊施設です。スキー場で、関西のスポーツ合宿のメッカである神鍋高原の3,000～4,000円で泊まれる民宿から、城崎温泉のVIPクラスが泊まる高級宿まで、あらゆる階層向けにありますので、条件を満たします。3つ目はアートのネットワークがあること。これはK I A C（城崎国際アートセンター）の実績で世界中のアーティストが来てくれる素地ができています。

また、アートには消費を刺激する要素があります。瀬戸内国際芸術祭で独り勝ちしたのは小豆島で、交通の要衝となったことから、来訪者にお土産として地場産業のオリーブ製品やそうめんの購買意欲を喚起させました。

人口の数は、演劇祭のアビニオンが9万人、映画祭のカンヌが7万人、そして豊岡は7万5,000人です。東京で映画祭を行っても一色にはなりませんが、この規模だから2～3週間アート一色になり、そこに熱狂が生まれ、世界中から人々が訪れるのです。

しかも、文化観光は季節を選びません。豊岡演劇祭を9月に行う理由は、但馬の宿泊のボトムだったからです。通年集客が可能になれば通年雇用もできますので、いい人材が観光業に入ります。シーズンの隙間を埋め、さらに経済を回すのが文化観光の強みです。

◆ 新しいものが感動を呼ぶ

私が暮らす旧日高町は、冒険家・植村直己さんの出身地です。冒険とアートは似たところがあります。それは、やってみせないと、その価値が分からないことです。アートの価値は皆さんの想像を超えるところにあります。「目新しいもの」と「新しいもの」は違います。目新しいものはすぐに忘れ去られますが、新しいものはパラダイムを転換していった、10年後、20年後にはそれが当たり前になるからです。

冒険の世界には、エベレストは最初の登山者

KOUENROKU

が一番偉いというような格言があります。それは、登れる山だと分かるからです。次いで無酸素や厳冬期に登っても、感心はしますが、感動はしません。アーティストも感動させないと駄目です。そのためには、本当に新しいものをつくらなければなりません。

大学は職員も入れて500人のコミュニティーで、直接消費だけで5～6億円、演劇祭も昨年の延べ観客動員が3万5,000人と、すごい経済波及効果です。城崎国際アートセンターは以前、世界有数のパフォーミングアーツに特化したアーティスト・イン・レジデンス施設といっても

理解困難でしたが、今や城崎を国際化するシンボルとして愛されております。

私たちアーティストは、常に前例のない冒険をしなくてははいけません。その最大の冒険者は利賀に50年前に来た鈴木忠志さんで、私は鈴木さんの背中を追っただけです。

富山も素晴らしい観光アイテムをたくさんお持ちです。北陸新幹線の通過点になるのか、最もお金が落ちる土地になるのかは皆さん次第ですが、その際にアートだけではなく、食やスポーツも含め、広い意味で文化が果たす役割は大きいと思います。



日本銀行金沢支店長 大川真一郎氏が講演 — 8月会員定例会 —

令和7年8月会員定例会を8月5日(火)、ホテルグランテラス富山で開催し、109名の会員が参加。日本銀行金沢支店長の大川真一郎氏をお招きし「最近の金融経済情勢」と題してご講演いただいた。

大川氏は、冒頭で足元の世界経済の動向について説明した後、トランプ関税政策に対する各国の交渉状況等についてデータを用いながら説明。政策の影響



大川 真一郎 氏

を、「関税コストの増加による一時的影響と、そのコストを取り戻そうとして値上げに転じる二次的影響に分けて考えるべき。足元の経済情勢は悪くはないが今後は二次的影響が日本の景

気、そして北陸企業にも及ぶ可能性がある」との見解を示した。

最後に、富山県が推進するウェルビーイングに着目し、「富山には素晴らしい資産が数多くあるが、県民はそれを自慢しながらない控え目な傾向があるように思う。まずは県民自身が富山の良さを自覚することが、富山の経済がさらに発展する上で必要ではないか」と講演を締めくくった。

難解な経済動向について国や地域毎、業種毎に分析し、それぞれの傾向を説明して頂き、参加した会員は終始聞き入り知見を深めた。



新たな構成でサミットがスタート

— 第1回日本海沿岸地域経済同友会サミット札幌大会 —

令和7年7月9日(水)に、北海道、青森、秋田、山形、新潟、富山、福井、京都、神戸、鳥取県、島根、沖縄の12経済同友会の代表幹事による「第1回日本海沿岸地域経済同友会サミット」が札幌市において開催され、当会から麦野英順、牧田和樹の両代表幹事と、次期開催地の準備として桶屋泰三、大橋聡司の両副代表幹事が参加した。

当サミットの始まりは、平成20年(2008年)に「日本海を玄関口として活路を開こうとしている地域の経済同友会代表が一堂に会し、到来しつつある環日本海時代に向け、日本海沿岸地域の相互交流や連携推進策、環日本海経済交流推進のための課題と対応策を協議する場」として、当会が提唱、実施し、令和5年(2023年)に一巡したことを機に、構成同友会、内容を新たにし、改めてスタートさせたものである。

北海道大会は、『東京一極集中の是正』を中長期的なテーマとしつつ、『日本海沿岸を結ぶ交通網の整備～特に災害時対応、経済安全保障、観光振興等を鑑みた



丸谷北海道経済同友会代表幹事

物流・人流について～』を開催テーマとして、北海道経済同友会 丸谷智保代表幹事のご挨拶により開会した。

まず、京都大学大学院工学研究科教授 藤井聡氏を講師に、「北海道沿岸エリア発展における必須プロジェクト～羽越・北陸・山陰・北海道新幹線と那覇名護鉄道による「国土軸」の形成～」の演題による基調講演が行われた。「交通網の整備なくして日本海側の発展はない、日本海側の成長が我が国の成長につながる」と力強く日本海軸の重要性を訴えた。

その後、物流を主テーマに、各地同友会が抱える諸課題について情報を共有し、その解決策等について意見交換を行い、最後に12経済同友会の総意としてアピール文を採択した。

意見交換においては、まず12の各地経済同友会の代表から順次意見が述べられ、当会からは牧田代表幹事が、「本県は、高速道路や港湾を抱え比較的物流網は



牧田代表幹事

充実しているが、東京以外の地域を結ぶ人流が弱い。日本海側の新幹線整備による人流網構築も入れたほうがよい。本州の日本海側の国際拠点港は新潟と富山の2つだけであり、港の面的活用も必要」との意見を述べた。

その後の意見交換においては、「交通網整備に関して、新幹線、高規格幹線道路、港湾等に加え、非常時のバックアップ体制確保に、鉄道複線化、地方港湾と接続する道路網などの整備が必要」「東京一極集中の是正には、リスク回避の観点から省庁の移転などを進めること」等、多様な意見が出され、また、「アピール文は、マスコミ等に公表するだけでなく、国や県にも要望すべきではないか」など、熱心な議論がなされた。

第2部の交流レセプションは、鈴木直道北海道知事、加藤修札幌市副市長の来賓ごあいさつの後、北海道経済同友会 西山隆司代表幹事の乾杯により開宴した。中盤には、来年の第38回全国経済同友会セミナー(高知大会)のPRのため会場入りした、土佐経済同友会 高野一郎代表幹事はじめメンバーが、「来年はぜひ高知でお会いしましょう」とステージに横断幕を広げ、高知の魅力をアピールし会場を盛り上げた。

また、終盤には次期開催地の挨拶として麦野代表幹事が登壇し、北前船西回り航路による日本海沿岸地域



麦野代表幹事

の取引の歴史と当サミットがスタートした経緯を振り返り、「富山は、新鮮な魚介類に恵まれ、人混みを避けながら、文化的な感動と美食を存分に楽しめるとニューヨークタイムズの『2025年に行くべき52カ所』に選ばれた。ぜひ来年は、皆様に富山を訪れていただき、富山の食、文化、

街並み等を存分にご堪能いただきたい」と述べた。

最後に、北海道経済同友会 秋山孝二副代表幹事の閉会挨拶により、来年7月8日の富山での再会を誓い、第1回サミット（札幌大会）は盛会のうちに幕を閉じた。

ようこそ、富山経済同友会へ ～ 新会員歓迎オリエンテーション・懇親会 ～

交流委員会（島田好美委員長）は、8月20日（水）に、令和6年10月以降に入会または交代された新会員を対象としたオリエンテーション・懇親会をオックスカナルパークホテル富山で開催し、新会員38名を含む計61名が参加した。本行事は新会員の方に当会の歴史と活動をより理解していただくとともに、役員との親睦を深める目的で毎年開催している。

オリエンテーションでは、麦野英順代表幹事が「皆様の入会を心より歓迎申し上げます」と述べた後、「富山経済同友会について」と題して当会のこれまでのあゆみ・活動理念・活動状況等について説明し、行事・委員会への積極的な参加を呼びかけた。その後は新会員がステージ上で一人ずつ自己紹介し、同友会活動への意気込みや抱負を述べた。最後に、正副代表幹事と38名の新会員で記念撮影を行った。

懇親会では、牧田和樹代表幹事が「新会員の

皆様、ようこそ富山経済同友会へ。経済同友会が他の団体と決定的に異なるところは、所属企業や業種に関わらず個人の資格で加入し、各自の意思で活動すると

ころであるので、是非いろんな活動に参加し、いろんな方々と交流していただきたい」と述べ、乾杯した。

終わりに、交流委員会の伊東潤一郎担当役員が「新会員の皆様には是非多くの活動に参加して、多くの方と交流を深めていただきたい。特に、

県外から来られた方は、富山の地酒や、食べ物だけでなく富山の言葉なども味わいながら交流していただければと思う」と述べ、懇親会を閉じた。



牧田代表幹事



麦野代表幹事



伊東交流担当役員



地域の発展に連携して取り組む

— 富山県との意見交換会 —

7月29日(火)、富山電気ビルディングにおいて富山県知事等との意見交換会を開催した。

富山県と当会がこれまで以上に連携を図り、地域の諸課題に対処するため、当会から申し入れ、県側からは、新田八朗知事、佐藤一絵副知事、川津鉄三知事政策局長、田中雅敏経営管理部長、山室芳剛商工労働部長の5人が、当会側からは、麦野英順、牧田和樹両代表幹事、桶屋泰三、大橋聡司、松田光司の三副代表幹事の5人が出席した。

意見交換会は、牧田代表幹事の進行により、冒頭、麦野代表幹事が開会挨拶で「自由な立場から積極的に政策面に参画し、県・我が



麦野代表幹事



牧田代表幹事

国経済の発展に貢献するという当会の設立趣旨にのっとり、先行き不透明な時代であるからこそ、行政と経済界が連携を深め活力ある地域の創造に取り組んでまいりたい。本日は、課題を共有し、協力して施策を前に進めるため、率直なご意見をお願いしたい。また、7月9日(水)に日本海沿岸の12経済同友会の代表幹事による『第1回日本海沿岸地域経済同友会サミット』を札幌において開催し、『東京一極集中是正と日本海沿岸地域の更なる連携強化のアピール』を採択した。来年の第2回サミットは、7月に富山で開催するので、新田知事にもご出席いただきたい」と述べた。

当会の特別顧問でもある新田知事は、「行動する経済人として県

経済・産業を牽引する諸活動を行ってもらっており感謝する。労働供給に制約がかかる時代に入り、人材不足、不透明な米国関税、選挙後の混乱など課題山積だが、こうした時こそ経済界と歩調を合わせ対処していきたい」と挨拶した。

続いて、意見交換会の話題提供として、大橋副代表幹事からは当会の3つの委員会（人財活躍・教育問題・地域創生委員会）が発表した6つの提言について説明した。

県からは、川津知事政策局長が「新たな総合計画について」、県民・関係団体等との対話を通じて県民が主役の計画づくりを進めていることを、山室商工労働部長が「人材活躍・共生について」、県庁内に人材確保・活躍推進本部を設置し、既存の枠組みに捉われず、アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成や、スポットワークなどの新しいアプローチによる要素も盛り込んだパッケージとする全国に先駆けた「人材確保・活躍の富山モデル」の創出を目指していることを説明された。

その後、引き続き牧田代表幹事の進行のもと、自由な意見交換に入り、まずは、産業界の人手不足対策をテーマに、職種間・学歴間の供給と需要のミスマッチ解消のための意識改革、デスクワークからエッセンシャルワークへの労働移動の促進、シニアなどが活躍できるスポットワークの普及などとともに、労働供給に見合った仕事のやり方に率先して変えていくこと、一律の支援ではない、不足する分野への労働移動を促進する支援策が必要であること等を確認した。

また、東京一極集中の是正、地方創生2.0などに関しても熱心に意見交換が行われた。



新田知事

閉会にあたり、新田知事から「今回、このような場を設けてもらったが、日頃から自由に意見が言いあえる関係を築いていきたい」との感想が述べられ、牧田代表幹事が「このようなフランクな意見交換の場を、今後も設定できれば実りは多い」とその場を締めた。

その後、会場を移し、懇親会が開催された。



“稼げる富山”の実現に向けて — 第1回地域創生委員会 —

7月17日(木)、オークスカナルパークホテル富山において第1回地域創生委員会（橋本淳委員長）を開催。委員60名が出席し、委員会の活動方針を受けた副委員長らによる発表を踏まえ、テーブルワークショップをととして今後の活動の方向性を探った。

最初に、橋本委員長が活動方針について説明。人口減少が進む中、幅広い“地域創生”の取組みの中から、企業を主役に捉えた「“稼げる富山”の実現」を活動テーマとして掲げ、地域全体の収益力を高めるために「自社努力では解決できない支援」について調査・研究を進めること、等々が共有された。

続いて、その活動の前提となる「数字から見



橋本委員長

る富山県の経済状況」について田中副委員長から説明があった後、花田副委員長、須田副委員長及びNTT西日本の瓜生富山支店長、南砺市の山田総合政策部長からそれぞれ、産官連携・産（大企業）産（中小・中堅企業）連携・規制緩和等の先進事例の発表があった。

そして、それらを踏まえ委員ら全員でワークショップを実施。7～8名のテーブル毎に、副委員長らがファシリテーターを務め、“自社努力では解決できない支援”にはどのようなものがあるか、ディスカッションを行った。出された意見は、副委員長らがとりまとめ各テーブルを代表して発表。“稼げる富山”実現に向けた課題、これまでチャレンジしてきたこと、今すぐ変わると嬉しい・助かること等々、幅広い視点でアイデアが挙げられ、活気あふれる委員会のスタートとなった。



テーブルワークショップの様子



なぜ“今、私たち”がDXとAIに取り組むのか — 第1回デジタル推進委員会 —

7月7日(月)、ホテルグランテラス富山において第1回デジタル推進委員会(西田美樹委員長)を開催。委員ら38名が出席し、正副委員長によるパネルディスカッションをベースに、新たに設置された委員会の活動の方向性について意見を交わした。

最初に西田委員長が、委員会活動方針・活動計画について説明。「労働生産性向上に向けた企業変革の推進」の方針のもと、「DX/AI活用の推進に関する調査・研究」「デジタル推進に資する意識改革及び体験の場の提供」に活動の軸を置き、中小企業におけるデジタル推進の現状を提示した。

続いて、副委員長5名もパネリストとして登壇し、委員長をファシリテーターにパネルディ



西田委員長



スカッションを展開。「なぜ“今、私たち”がDXとAIに取り組むのか～中小企業の生産性を変える“次の一手”を探る～」をテーマとして、自社が抱える課題や現場のリアルを背景に、デジタル推進の必要性や可能性、その本質、世代間の温度差等、それぞれの考えを語った。

今回は、委員会の趣旨に鑑みデジタルツールを積極的に活用し、「自社のDXの段階」等アンケートへのライブ投票や、正副委員長のディスカッションに対するリアルタイム投稿を実施。参加型・体験型の形式でデジタルに触れつつ賑やかに、課題や思いを共有し今後の活動の方向性を探る有意義な機会となった。



豊かな心の涵養と経済人としての資質向上を — 第1回文化芸術委員会 —

7月2日(水)、オークスカナルパークホテル富山において第1回文化芸術委員会(近藤裕世委員長)を開催。委員49名が出席した。

最初に、近藤委員長が2025年度の活動方針について説明。富山が誇る伝統文化・食文化に触れ、楽しく活動しながら豊かな心の涵養と経済人としての資質向上を図り、富山の文化芸術をバックグラウンドとした「人づくり・まちづくり」を学んでいくとした。

続いて、富山県公立文化施設協議会会長(富山県民会館長)の倉田千春氏が、「とやまの文化『つなぐ』×『魅せる』公立文化ホールの今～現場の声をもとに～」と題し講演を行った。倉田氏は、富山県公立文化施設協議会が、県内



近藤委員長

の27の公立文化ホール等が相互に連携し、文化事業や施設運営に関する情報共有や共同研究等を通じて、各文化施設と本県文化活動の一層の活性化を図るために結成された組織であることを紹介し、現在の公立文化ホールが、地域の芸術文化の活性化を実現するうえで直面している事業資金不足や専門人材の不足等の問題や、その問題を解決するために文化ホール同士が協力して取組んでいる活動等について説明し「多くの方が文化ホールに関心を寄せるきっかけになれば」と締めくくった。

今後、文化芸術をバックグラウンドとしたまちづくりを考えていくうえで、その拠点となる文化施設の現状を知る貴重な機会となった。



倉田 千春 氏

富山のインバウンド戦略を学ぶ

— 第1回観光戦略委員会 —

7月31日(木)、オークスカナルパークホテル富山において第1回観光戦略委員会（酒井郁生委員長）を開催し、委員62名が参加した。酒井委員長の挨拶の後、担当役員及び副委員長の紹介がなされた。引き続き、今年度の活動計画が説明され「富山を世界に誇る観光拠点に！」をテーマに、①観光地域づくりの調査・研究、②観光コンテンツの整理と魅力再発見、③経済効果を高めるための取組みの推進に取り組むとした。

続いて、講演会を2部構成で行った。第1部では、富山県観光推進局 局長の宮崎一郎氏を招き、「インバウンドビジネスに参入しませんか！」と題し講演いただいた。宮崎氏は、インバウンドビジネスによる観光振興の必要性や、富山県のイ



酒井委員長



宮崎 一郎 氏

ンバウンド戦略を、わかりやすく解説し、富山県の魅力的な観光資源やその発信の仕方について、たくさんの写真を交えて紹介した。講演後は委員との活発な質疑応答がなされた。

第2部では、(公財)日本交通社 観光研究部 主任研究員の蛭澤俊典氏に「富山県を取り巻く訪日インバウンド市場動向 今後の展望」と題し講演いただいた。蛭澤氏は、多く



蛭澤 俊典 氏

のデータ分析による、全国的な国内旅行市場、海外旅行市場、訪日インバウンド市場の動向について解説した後、富山県の訪日インバウンドに関するデータを示し、動向や市場の展望、誘客のヒント等を示した。参加委員からは富山県に焦点を絞った貴重なデータを知ることができて、参考になったとの意見が多かった。

委員会後に行われた懇親会では、多くの委員が宮崎氏、蛭澤氏に質問する等交流し、盛会のうちに終了した。

持続可能な経営に向けて、攻守ともに次なる一手を考える場の提供

— 第1回企業経営委員会 —

8月5日(火)、ホテルグランテラス富山において第1回企業経営委員会(山田恵子委員長)を開催。委員46名が出席した。山田委員長は、挨拶の後、中澤担当役員及び副委員長8名を紹介し、続けて2025年度の活動方針・活動計画についての説明に移った。「金融・景気動向や国際情勢等を踏まえた対応、GXへの対応、組織ガバナンスの強化・徹底等」の方針のもと、今年度の活動計画として、「持続可能な経営に



山田委員長

向けて、攻守ともに次なる一手を考える場の提供」をテーマとすることを紹介し、「不安定な国際情勢や、



GX・DXの加速、人手不足などの構造的な課題等、企業を取り巻く環境はかつてない程のスピードで変化している。持続可能な経営に向けて攻守ともに次なる一手を打ち出すことが必要であり、ともに学びともに考える委員会にしていきたい」と語った。第2回企業経営委員会はGXをテーマに11月の開催を予定している。



— 課外授業講師派遣 —

第2回 砺波市立庄川中学校

7月9日(木)、碓井一平氏(株就活ラジオ代表取締役)が砺波市立庄川中学校の2学年41名に対し「どんな社会にも、負けない人生を目指して」と題して課外授業を行った。

碓井代表ははじめに、前の週に14歳の挑戦を終えたばかりの生徒との対話において、自身も今でも覚えている貴重な経験であったと、牧場での当時の経験を振り返った。

続けて、同じ“14歳”と言っても、住んでいる場所や、海外に行った経験の有無、14歳の挑戦のような経験の有無など、個人を取り巻く環境は異なることを指摘し、「環境が人をつくる。世の中は平等なようでいて、平等ではないという事実を受け止め、自分が今置かれている状況を理解し、どのような選択をするかということが今後の人生を左右する。様々な経験を積み、社会で戦えるだけのスキルを身に付けなければならない。スキルを身に付けるには、好き嫌いせずとりあえず何でもやってみるチャレンジ精

神が必要であり、どんな挑戦もマイナスになることはない」と語った。一方で、唯一平等に与えられているのは時間であり、限られた時間をどう使うかは後々大人になっても影響すると述べた。



碓井 一平 氏

また、大きくなるにつれて、様々な場面で周囲と比べられる機会が増え、自己肯定感が下がることもあるが、「他人のものさしではかられたところで案外気にすることはない。自分のものさしを見つけてほしい」と語った。

最後に、「自分のやりたいことにまっすぐ取り組み、他人に何と言われようとも、自分で自分を否定しない、そんなチャレンジ精神旺盛な若者になってくれることを心から祈っている」と、メッセージを送り講演を締めくくった。

第3回 小矢部市立津沢小学校

令和7年7月11日(金)、種昂哲氏(株スタジオシュワリ代表取締役)が小矢部市立津沢小学校の6学年49名に「初めて会社を立ち上げるみなさんへ」と題して課外授業を行った。

津沢小学校では地域の人に笑顔になってもらうことを目標に、地元朝市への出店に挑戦している。これからキッズショップを立ち上げる児童に対し、種昂代表ははじめに、企業理念やコンセプトの必要性について、仕事には多くの人に関わることを前提として「理念やコンセプトはコミュニケーションの道具。これらがなかったら、皆がバラバラな方向を向いて仕事することとなり、きっと良い商品はできない」と述べた。そして、コンセプトを作るためには、①どんな物を売りたいか、②どんな人を買ってほしいか、③買った人にどんな気持ちになってもらいたいかを考えるとよいと助言し、その後のグループワークでは児童が思い思いのコンセプトについて考えた。

続けて、クリエイティブな発想をするために、

①何でもよく調べること、②人の話をよく聞き素直に受け止めること、③恥ずかしがらず、失敗を恐れず口に出すこと、行動すること、④考えながら日常を過ごすこと、⑤他の分野にも興味をもつこと、の5つのコツを紹介し、ぜひ実践してみてほしいと呼びかけた。



種昂 哲 氏

また、商品に利益をどのくらい乗せるかという問いに対して「価格や利益は単なる数字ではなく、仕事の楽しさや未来への希望を見出すこともできる」と、柔軟な発想や視点で考えることを勧めた。

最後に、「世の中にない新しい価値観を生み出すこと、今この場所で、この人としかなることができないという点が『クリエイティブな発想』の魅力」と語り締めくくった。

第4回 富山県立富山北部高等学校

令和7年8月22日(金)、市森友明氏(NiX JAPAN(株)代表取締役社長)、大橋聡司氏(大高建設(株)代表取締役社長)、東澤善樹氏(とうざわ印刷工芸(株)代表取締役社長)、藤井喜大氏(株)ネクストリー代表取締役)の4氏が富山県立富山北部高等学校で開催された「富北キャリアデザイン講座<企業人にきく>」において、1学年241名に対し課外授業を行った。

市森社長は普通科の生徒に対し、「努力の仕組みを知ると、努力は楽しくなる」と題して、将来のキャリア形成のために今何をすべきか、発信した。

仕事とは、“単なる収入源ではなく、社会に価値を提供し、自己実現を満たすもの”とし、社会課題解決ビジネスを例に、企業、行政、地域が連携することで、より良い社会を築くことができる」と示唆した。

続けて、「例えば、橋の設計には物理の知識が、プログラミングや金融保険商品の設計には数学の知識が、ホテルのフロント業務には英語力が求められるように、社会貢献する仕事には技術や技能が必ず求められる。それを身に付けるのが『学習』である」と学習の重要性について言及した。広くまんべんなく学ぶことが、選択肢を広げることに繋がり、未来の自分への最高のプレゼントになると説いた。

努力について、“成長の壁”を乗り越えることの重要性を強調し、「仕事にも学習にも成長

の壁は存在し、壁に届くまで成長の実感の無き努力が続く。努力の量と成果は必ずしも比例しないが、この期間を乗り切れれば、ブレイクスルーは突然訪れる」とメカニズムを示し伝えた。

最後に、「今は実感が沸かないかもしれないが、いつか『あの時やっておいて良かった』と思える時が必ずくる。成長の壁の前で努力をやめるともったいない。成長の壁を超えると、仕事も勉強も楽しくなる、ということを知っていただければ、高校生活もその後の人生もぐっと良いものになる。生まれつき人間の能力に差があることは事実だが、大概のことは努力すれば埋められる。ぜひ頑張ってください」と、熱く語り講演を締めくくった。



市森 友明 氏

大橋社長はくすりバイオ科の生徒に対し、楽をして生きるよりも、やりがいを持って生きる方が、幸せを感じられるものだと、よりよく生きるために必要なことを説いた。

はじめに、自身が務める役職を紹介し、それらを引き受け信頼に応えることが自分の成長につながっていると、「これからの人生でたくさん頼まれ事をすることがあると思うが、一生懸命にこなすことで、相手に感謝されるし、自分自身のやりがいや達成感にもつながる。面倒だと感じても、“まずはやってみる”ことを実践してほしい」と伝えた。

また、「失敗は貴重な経験であり、失敗から学ぶことは、ただ成功するよりも“生きた成功”につながる」と説いた。多様化する時代において、何が正解か誰もわからないし、答えは一つではない。失敗を恐れずチャレンジすることの大切さを強調し、答えが一つしかないものは、AIが判断可能であるとし、「これからは人間にしかない能力—コミュニケーション力や協調

性、誠実性、勤勉さ、自制心、忍耐力等の非認知能力を磨くことが求められる」と述べた。

続いて、働くことの意味は「働」の漢字の成り立ちから、人が動くことであり、(当て字で)「傍(を)楽(にする)」であると語った。

周りの人を楽にするために動き、それが社会の人から喜ばれ、社会のために何をするかにつながると訴えかけた。

最後に、物事を多面的・長期的に考え、根本・本質を探る“多・長・根”を日頃から意識するとよいとアドバイスし、「いろんなことに挑戦し、失敗を繰り返しながら人と協調し、感謝を忘れず、幸せな人生を歩んでほしい」とエールを送り講演を締めくくった。



大橋 聡司 氏

東澤社長は情報デザイン科の生徒に対し、働くこと、学ぶことの意義について、自社の新入社員と掛け合いをしながら授業を行った。

はじめに、自社で手掛けた印刷物を紹介する中で、地域の保護猫施設と連携し、スタンプラリーを通じて猫の里親探しや啓発活動を支援する活動にも取り組んでいることを紹介した。続けて、新入社員の遠藤さんが、印刷業の仕事内容について、自身が作成した冊子「クライアントの想いをカタチに」をもとに、各部署の役割を視覚的にもわかりやすく説明した。東澤社長の突然の質問にも「働いてみて難しいと感じることも多いが、顧客の想いを形にすることにやりがいを感じる」と率直な思いを述べた。

次に、働くことの意義について、「仕事とは、生計を立てるためのものという面もあるが、広い目で見ると、世の中への貢献という面もあると感じている」と語った。また、仕事は楽しみながらやるのが大切であるとも強調した。

続けて、「勉強は自分の得意なことを見つけ

るためのプロセス」とし、印刷業でも様々な企業・団体の印刷物に携わる中で、校正の段階で基礎的な知識が役立つこともあることを例に挙げながら、学んだことが仕事にも結び付くと述べた。嫌々でも何でも、後々何かのきっかけになることもあるとし、“やらないよりは、やってみよう”という気持ちで挑戦してほしいと力強く語った。やりたいことは、その時々で変わってもいいとしたうえで、周囲の人に相談しながら柔軟に工夫することが大切と述べた。

最後に、生成AIなど時代の変化にも触れ、「広い視野を持ってキャリアを築いてほしい」と激励し、講演を締めくくった。



東澤 善樹 氏

藤井代表は普通科体育コースの生徒に対し「強みを活かす」をテーマに授業を行った。

はじめに、学生時代や社会人になってからのうまくいった経験、挫折した経験談を交え、“強み”を活かすことができると人生は豊かになると語った。

“強み”は特別な才能・スキルではなく、自分では意識せずに当たり前にやっていることや、夢中でやっていることの中にあり、自分では気がつかないことも多い。自身が強みを意識するようになった頃に、妻に言われた自分の強みとして、第一印象が良い、聞き上手、冷静、教えることが上手、体格がいい、力が強い、たくさん食べることを挙げ、これらはどれも自分では強みだと認識していないものであったことを打ち明けた。身近な人に聞いたり、好きなことを動詞にして考えたりすることで自分の強みが見えてくる。それらが本当に自分の強みであるか疑問に思ったとしても、とりあえず受け入れてみることで様々な場面で活躍できることもある

と語った。

強みを活かすことができる、物事がうまくいくことが多く、やっていて楽しいし、自己肯定感が上がって自分のことが好きになる。また、違う強みを持つ仲間がいるからこそ、協力することでチームとしての力が強くなる。学生生活はもとより社会に出てからも役に立つ、強みを活かすことの重要性を示した。

最後に、「今は学校の先生や部活動の監督、親に、強みを見つけてもらい、うまく導いてもらっている状態」だとし、「社会に出るとそうはいかない。今から自分を見つめることが大切」と話し、ぜひ能力を発揮して豊かな人生を送ってほしいとエールを送り締めくくった。



藤井 喜大 氏

第5回 富山県立砺波高等学校

令和7年8月26日(火)、寺脇秀樹氏(株三井住友銀行富山法人営業部長)、三原克久氏(三菱商事株北陸支店長)が富山県立砺波高等学校で開催された職業理解講座「エキスパートに学ぶ」において、1学年の生徒を対象に課外授業を行った。

寺脇部長は「金融とは、世の中を円滑にすること」と題して課外授業を行った。

はじめに、銀行の役割について、お金を預かる(=預金)、お金を貸し出す(=融資)、お金を送る(=為替)こと、すなわち、世の中を動かすために必要なお金のやりとりをすることであり、銀行業務が成り立つのは信頼が根底にあると説明した。これらに限らず、顧客の困りごとを情報を駆使して解決する、コンサルティング事業やソリューション事業等、人と人をつなぐ役割も担っており、ここでも何より求められるのは「信頼」であると語った。

そして、一概に言うことはできないが、他人の悩みに耳を傾け解決策を提案するための関係構築力や、柔軟な対応力等、コミュニケーション能力があり、誰かの役に立つことや感謝されることにやりがいを感じられる人は銀行業務に向いていると話した。多種多様な業界の顧客とのやり取りを通して、今まで知らなかったことを学習する機会が得られるため、日頃からいろ

いろなことに興味・関心を持って生活している人もまた、この仕事に向いていると、自身の経験から考えを述べた。社会人になってからも成長し続けることができるのは、この仕事の魅力の一つだと語った。



寺脇 秀樹 氏

最後に、生徒からの「銀行で働くためには、文系・理系のどちらを選択するとより役に立つか」との質問に対し、「文系出身者が多いが、文理を問わず活躍している人はいる。文理選択だけで人生を二分してしまうのはもったいないし、いくらでもやり直しは可能。今自分が興味を持っていることは何か、ということに焦点をあてて今できるベストな選択をしてほしい」とアドバイスし、講演を締めくくった。

三原支店長は「総合商社とは」と題し、課外授業を行った。

はじめに、商社の仕事について、かつては取引先の仲介を行うことが中心であったが、時代の変化とともに、プレイヤーとして事業に携わる総合事業会社に移行してきた背景を説明。常に社会の課題やニーズに向き合いながら変化し、それらを解決する形でビジネスを展開していることを具体的な事業を紹介しながら話した。

続けて、「所期奉公」「処事光明」「立業貿易」というグループの共通理念をもとに社会的意義のある取組みを行っていることに触れ、「会社としても個人としてもこの考え方を大事にしている」と、夢があり、世界とつながる魅力やチャンスがある商社の仕事への想いを語った。そして、国際化するビジネス社会では、異文化を理解・許容し、共存することが重要であり、取引先の国や組織について包括的に理解することが大切と述べた。

また、商売をする際に重要なことは「信頼」

等、生徒から寄せられた質問に回答する中で、「大学3年時に、バックパッカーとしてメキシコを放浪した際、現地でリゾート開発をしていた日本の建設会社の駐在員にやりがいを見つけたところ、『日本の技術で発展途上国を豊かにすること』との返答に、自分がやりたいことはこれだと気付かされた」と言い、海外で仕事ができる仕事を考えたら総合商社にたどり着いたと商社を選択したきっかけを語った。



三原 克久 氏

最後に、「The sky is the limit. できない理由ではなく、叶える方法を見つけましょう。自分に対して期待感を持ち続け、可能性を信じ最後までやり抜くことができる人は必ず成功する」と激励し、講演を締めくくった。

「令和の富山型学校教育と社会教育～今、教育現場に求められること～」

小・中・県立学校3年次校長研修会にて講演

令和7年7月29日(火)、寺島雅峰氏(株)寺島コンサルタント代表取締役)が小・中・県立学校3年次校長研修会(富山県教育委員会主催)において、3年目校長39名を対象に「令和の富山型学校教育と社会教育～今、教育現場に求められること～」と題して講演を行った。

寺島代表はまず、自社で取り組む人事制度再構築について説明した。取組みの背景として「従業員のさらなる成長の加速を目指した人的資源管理体制・制度の構築」を目指す企業の経営課題を挙げた。最も重要な経営資源である「ヒト」を「人材」から「人財」へと高めていくため、評価制度の確立や等級制度の明確化、整合性のある報酬制度の新設といった方針を紹介した。

次に、新学習指導要領に基づく新しい教育の在り方について触れた。自身が見聞きした経験から、主体的な学びを進める学校は変容し、先生方が成長しているとした。コミュニティスクール、

チーム富山教育にも言及し、地域の教育力を高め、ふるさとへの愛着を育むため、学校が主役となってこれまで以上に地域と連携することの重要性を訴えた。また、校長が旗振り役となってPTAと積極的に議論をすることで、家庭教育と学校教育の相乗効果を生み出すことができるとした。

最後に、校長先生へのお願いとして、「児童生徒や教職員の価値観が異なる人とのかかわりを大切にしてほしい。いわば『異種格闘技戦』のような出会いが成長を促す」と呼びかけた。「先生は失敗しながら成長する子どもの姿に喜びを感じられる。熱い思いをもつ先生の背中を見て先生になりたいと思うものだ。校長先生のマネジメントによって熱意を高めてほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



寺島 雅峰 氏

会 員 の 入 退 会

(7月幹事会)

1. 最近思うこと(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)
2. 生活信条(座右の銘等)
3. 趣味

入 会



あ だ ち か ず お
足 立 一 男
(有)松井板硝子店
代表取締役社長
(紹介者: 沼田雅博氏)

1. 社長の責務は、50年先でも潰れない会社を作ることだと思う。それには、長期的戦略を見誤らず、方向性は自ら決めるが、環境を整え、方法論は社員に任せるのが良いと思う。
2. 良い人生はお金では買えない。
3. 海外旅行、ゴルフ、読書、ビジネス



お か も と た つ や
岡 本 達 也
(公財)富山県文化振興財団
理事長
(紹介者: 梅田ひろ美氏)

1. 人と未来のために
走り続けること 変わり続けること
2. 一隅を照らす
3. 銭湯、街歩き



しな がわ ゆういちろう
品 川 祐一郎

トヨタモビリティ富山(株)
代表取締役社長
(紹介者：塩井保彦氏)

1. 本格的な人口減少社会が到来し、社会の様々なパラダイムの変化を実感します。富山経済同友会にて学ばせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
2. 不易流行、自利利他、報恩感謝
3. 車を運転すること

交 代



あし はら つよし
芦 原 剛

富山県民共済生活協同組合
代表理事常務理事
(前：高橋賢治氏)

1. 事業としては、人口減少が続くという厳しい状況下にあります。1人でも多くの富山県民の方にご理解・納得いただき、保障制度の輪に加わってもらえるように努めています。
2. 実るほど頭を垂れる稲穂かな
3. 将棋観戦、スポーツ観戦



お ざき のり お
尾 崎 教 郎

積水ハウス(株)
北陸支店長
(前：松井洋興氏)

1. 人口減少・建築部材・人件費の高騰に伴い、将来の日本の戸建住宅の行く末について心配しています。
2. 一日一生
3. 映画・音楽鑑賞、バイク



う りゅう とも ふみ
瓜 生 知 史

NTT 西日本(株)
富山支店長
(前：東山真也氏)

1. 労働力不足、物価高、社会保障の持続困難、環境問題などあらゆる社会課題がありますが、子供からお年寄りまでみんなの笑顔があふれる、また活気ある日常を実現したいです。
2. 粉骨砕身
3. スポーツ観戦、キャンプ、旅行など



きよ さわ さとし
清 澤 聡

コーセル(株)
取締役 常務執行役員
(前：谷川正人氏)

1. 「企業は人」、「事業は人づくり」
2. 「心の師となるとも、心を師とせざれ」
3. 映画を観る、音楽を聴く



さか もと よし かず
坂 本 嘉 和
堤地所(株)
代表取締役
(前：久保泰一氏)

1. 地域経済の活性化、街づくりに微力ながら貢献できればと思っております。
2. 健康は第一の富である（最近つくづく感じています）
3. ゴルフ、旅行



たて いし よし ひろ
立 石 善 裕
富山ターミナルビル(株)
代表取締役社長
(前：水田整氏)

1. 昨今の社会情勢について人口減少が加速する中、成長に資する有効な打ち手を見出せず、停滞感が蔓延している。グローバルな産業振興、観光資源開発等に商機を見出したい。
2. 受けた恩は石に刻めかけた恩は水に流せ
3. 特になし



つじ ぐち やす ひろ
辻 口 康 宏
日本銀行
富山事務所長
(前：藤澤知行氏)

1. 各地での戦争、AIの普及、関税政策など、一昔前には想像できなかった世の中になっていますが、こうした状況だからこそ、自ら考え、正しいと思うことをやっていきたいです。
2. 大丈夫、心配するな、なんとかなる
3. 街歩き、読書



はたけ やま たく や
畑 山 拓 也
堤商事(株)
代表取締役社長
(前：岩井典宏氏)

1. 社長就任にあたり、業界を取り巻く環境変化にしっかりと対応して参りたく、諸先輩のご指導をお願い申し上げます。
2. 健康増進のため、体力維持と体重管理を徹底したく考えます。
3. ウォーキング、ランニング、バスケ観戦



ひょう どう ひろ あき
兵 藤 浩 章
(株)富山エクセルホテル東急
総支配人
(前：中野敦彦氏)

1. 近年、社会や経済の変化がますます加速しております。デジタル化や人材不足、物価高騰などの企業活動に影響を及ぼす課題が山積です。この課題に全力で臨みます。
2. ホテルは単なる宿泊施設ではなく心のこもったおもてなしを提供する空間であります。
3. 音楽鑑賞、休日のマラソン



ふる た まさる
古 田 勝
日本海コンクリート工業(株)
代表取締役社長
(前：新谷智弘氏)

1. 電柱や基礎杭、基礎工事の技術力を活かして、安心・安全で豊かなまちづくりに貢献し、地域の皆さまから信頼される会社を目指します。
2. いつまでも新しいことを学び、挑戦し続ける姿勢を大切にしたいと思っています。
3. 旅行、登山・トレッキング



ほそ かわ まさる
細 川 賢
富山テレビ放送(株)
代表取締役社長
(前：中西修氏)

1. 時代の変化に伴いアップデートしていくことが大切。一方、地域メディアとして、地域の発展に貢献することは、変わらぬ責務です。より良い明日の為に、力を尽くします。
2. 人間万事塞翁が馬
3. ドラマ及び映画鑑賞、スポーツ観戦、ゴルフ



まつ だいら よし はる
松 平 好 治
日本生命保険（相）
富山支社長
(前：中嶋徹氏)

1. 日本生命富山支社は、県との包括連携協定に基づいたがん啓発活動をはじめ、地域に根差し、地域のお役に立つ活動に取り組んでまいります。
2. 信念・誠実・努力。そして日々笑顔を大切にすること。
3. マジック



み さわ まこと
三 澤 誠
関西電力(株)
理事北陸支社長
(前：須谷浩史氏)

1. 北陸エリアで多くの水力発電所を運営させて頂けているのは、地域の皆さまのご理解・ご協力のお陰であり、微力ながら地域の発展・成長に貢献させて頂ければと思います。
2. 即今当処自己
3. スポーツ観戦、ライブ・舞台鑑賞



みや もと なん きち
宮 本 南 吉
富山新聞社
副代表
(前：杉山圭一郎氏)

1. これから新聞はどうあるべきか。紙の新聞はどうあるべきか、デジタルの新聞はどうあるべきか。若手記者の育成はどうあるべきか。人口減少時代の地方はどうあるべきか。
2. 知恵の何たるかを読むことによって学べ。
3. 読書、音楽

退 会

米 屋 慎 一 北星ゴム工業(株) 取締役社長
中 条 充 康 (学)北日本自動車学校 理事長

(令和7年7月24日現在 会員数436名)



「富山からの転校生」を待つ

白 川 友 之

(日本放送協会 富山放送局長)

2023年7月に富山に赴任し、こちらでの生活も3年目に入りました。富山で暮らすのは今回が初めてですが、プライベートでは自宅がある東京で20年前から富山の方々とご縁があり、お世話になってきました。きっかけは、息子が世田谷区の少年サッカークラブ・なかまちFCに入会したことです。私は最初は送迎係でしたが、学生時代サッカーをしていたこともあり、クラブ代表から誘われ週末はコーチとして活動することになりました。なかまちFCの活動目的は、子どもたちがサッカーを楽しみ好きになってもらうこと。勝利至上主義ではないのですが、コーチが集まる会合では、「強豪チームに勝った」「招待大会で優勝した」などが話題になるため、どの学年もある程度の強さであることが、コーチ陣の心の安寧につながっていました。

富山とのご縁ですが、私の東京の自宅近くには18戸ほどの北陸銀行の社宅があり、富山から転勤してきた社員のお子さんが、息子と同じ小学校に通っていました。そして、なかまちFCにも北陸銀行社員のお子さんが何人も入会し、活躍していました。

ベテランコーチの間では、「富山から来たお子さんはコーチの話をよく聞き、上手くなる子が多い」とか、「富山でサッカーをしていたお子さんが転校してきて中心選手となり、一気に強くなった」という話が語られていました。実際に息子の2学年上のチームは、富山出身のエースストライカーが活躍する世田谷区の強豪でした。ただし転勤でお子さんがいなくなった途端に勝てなくなり、皆が落胆していました。

プロのサッカーで強化といえばトレードですが、少年サッカーでは転校生がその存在です。

なかまちFCは、選手が潤沢ではないこともあり、富山からの転校生がチーム力を左右する重要な存在でした。従ってクラブ関係者の関心事の一つは、北陸銀行の人事異動といえますか、富山から社宅に引っ越してくるお子さんでした。新たに転校生が来るとコーチの間で話題になり、体験練習に参加してもらうなどして、入会を待ち望んでおりました。私は、12年ほどコーチを務めましたが、富山のお子さんのおかげで勝利監督になった試合もあり、本当にお世話になりました。

富山に赴任して立山大使になった今、コーチ時代を振り返り反省していることがあります。それは富山出身のお子さんやご両親からチームメイトに富山の話をしてもらったり、クラブの夏合宿で富山遠征を提案して、東京の子どもたちに富山の魅力を体感してもらう機会を作っておけばよかったということです。唯一の救いは、指導した子どもたちは、今は大学生や社会人になっておりますが、かつてのチームメイトである富山の転校生との交流が一部で続いていることです。この先、富山の関係人口の増加につながってくれたらと願っています。

富山に本社を構え、東京にも拠点を持つ企業は数多くあります。そうした企業の社員が東京へ異動する際、同行するお子さんが地域に根ざした課外活動に参加すると、短い期間であっても大きな存在感を放つと実感しています。その縁が、富山と東京を結ぶ長期にわたる人の交流や関係人口増を生み出す可能性も秘めている。そんなことを、改めて感じています。

(次号は㈱スギノマシン
代表取締役社長の杉野 岳 様です。)

活動報告

7月1日～8月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
7月24日(木) 15:30～19:10 ホテルグランテラス富山	7月幹事会・会員定例会 講師：劇作家・演出家 平田 オリザ 氏 演題：「本気の文化によるまち作り」	108名
8月5日(火) 17:00～20:10 ホテルグランテラス富山	8月会員定例会 講師：日本銀行 金沢支店長 大川 真一郎 氏 演題：「最近の金融経済情勢」	109名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
7月2日(水) 17:00～19:30 オークスカナル パークホテル富山	第1回文化芸術委員会	・活動計画説明 ・講演会 講師：富山県公立文化施設協議会 会長 倉田 千春 氏 演題：「とやまの文化『つなぐ』×『魅せる』 公立文化ホールの今～現場の声をもとに～」	49名
7月3日(木) 16:00～17:30 事務局会議室	観光戦略委員会 第2回正副委員長会議	・第1回委員会について ・活動計画説明	10名
7月7日(月) 17:00～20:10 ホテルグランテラス富山	第1回 デジタル推進委員会	・活動計画説明 ・正副委員長パネルディスカッション 「なぜ“今、私たち”がDXとAIに取り組むのか？～中小企業の生産性を変える“次の一手”を探る」	37名
7月8日(火) 15:00～16:00 事務局会議室 (オンライン)	人財育成・活躍委員会	スケッチオーデション (キックオフミーティング)	6名
7月17日(木) 17:00～20:10 オークスカナル パークホテル富山	第1回地域創生委員会	・活動計画説明 ・数字から見る富山県の経済状況説明 ・事例発表 ①産官連携による事例 ②産（大企業）産（中小中堅企業） 連携による事例 ③規制緩和・連携による事例 ・テーブルワークショップ	62名
7月31日(木) 16:00～19:40 オークスカナル パークホテル富山	第1回観光戦略委員会	・活動計画説明 ・第1部講演会 講師：富山県観光推進局 局長 宮崎 一郎 氏 演題：「インバウンドビジネスに参入しませんか！」 ・第2部講演会 講師：(公財)日本交通公社 観光研究部 主任研究員 蛭澤 俊典 氏 演題：「富山県を取り巻く訪日インバウンド市場動向今後の展望」	61名
8月5日(火) 16:30～16:50 ホテルグランテラス富山	第1回企業経営委員会	・2025年度活動方針・活動計画説明	46名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
8月7日(木) 18:00～ ル・グルトン	地域創生委員会 第3回正副委員長会議	・今後の活動計画について	10名
8月21日(木) 16:00～17:00 オンライン	デジタル推進委員会 第2回正副委員長会議	・第1回委員会総括 ・第2回委員会について ・今後の予定について	7名
8月26日(火) 18:10～ ティファニー	文化芸術委員会 第3回正副委員長会議	・第2回委員会(SCOT観劇)について ・今後の活動内容について	9名
8月28日(木) 11:00～12:30 事務局会議室	教育を考える委員会 第2回正副委員長会議	・今後の活動内容について ・次回の委員会について	8名

○課外授業講師派遣・教育講演講師派遣

開催日	派遣先	対 象	出席者
7月9日(水)	砺波市立庄川中学校	2学年 41名	碓井 一平 氏
7月11日(金)	小矢部市立津沢小学校	6学年 49名	種昂 哲 氏
7月29日(火)	小・中・県立学校3年次校長研修会	小・中・県立学校 3年次校長 39名	寺島 雅峰 氏
8月19日(火)	キャリア教育指導者養成研修	高校教員（全国）	青山 和也 氏
			荒井 公浩 氏
			寺島 雅峰 氏
			羽根 敬喜 氏
			山田 仁史 氏
			横山 栄一郎 氏
8月20日(水)	富山市中堅教諭等資質向上研修	富山市内小中学校 11年次教員 60名	青山 和也 氏 尾山 謙二郎 氏
8月22日(金)	富山県立富山北部高等学校	1学年 241名	市森 友明 氏
			大橋 聡司 氏
			東澤 善樹 氏
			藤井 喜大 氏
8月26日(火)	富山県立砺波高等学校	1学年	寺脇 秀樹 氏
			三原 克久 氏

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
7月9日(水)	日本海沿岸地域経済同友会サミット	北海道札幌市	麦野代表幹事 牧田代表幹事 桶屋副代表幹事 大橋副代表幹事
8月27日(水)	中部経済同友会 創立70周年記念行事	愛知県名古屋市	麦野代表幹事 牧田代表幹事

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
7月29日(火)	富山県との意見交換会	富山電気ビルディング	正副代表幹事
8月19日(火)	富山県人会世界大会 第3回実行委員会	富山県民会館	麦野代表幹事
8月20日(水)	新会員歓迎オリエンテーション	オークスカナルパークホテル富山	61名
8月22日(金)	T-Messe2025 富山県ものづくり総合見本市 第2回運営委員会	富山県庁	藤井事務局次長
8月26日(火)	第1回富山市総合計画審議会	Toyama Sakuraビル	麦野代表幹事
8月27日(水)	第2回富山県米国関税情報連携会議	富山県庁	上田事務局長

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
9月26日(金)	正副代表幹事 交流委員会担当役員 委員長	第33回経済同友会中央日本地区会議	新潟県新潟市
10月6日(月)	幹事以上	10月幹事会	オークスカナル パークホテル富山
10月6日(月)	全会員	10月会員定例会 講師：e コモンズ 事務局長 金子 和裕 氏	オークスカナル パークホテル富山
10月22日(水) ～29日(水)	全会員	第43回海外経済視察	トルコ
12月8日(月)	全会員	海外経済視察報告会・年末懇親会	A N A クラウン プラザホテル富山
1月14日(水)	幹事以上	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気 ビルディング
1月26日(月)	全会員	1月会員定例会 講師：(株)an 代表取締役 永谷 亜矢子 氏	富山電気 ビルディング

〔表紙写真〕

新会員歓迎オリエンテーション

8月20日(水)新会員歓迎オリエンテーションをオークスカナルパークホテル富山で開催。38名の新会員がオリエンテーション・懇親会に参加し交流を深めました。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階
電 話 (076) 444-0660
F A X (076) 444-0661
e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp
https://www.doyukai.org/

わが青春の1枚



24歳 SE 時代、大手町の事務所で



現在も青春中！（今年の同期会にて山野さん、北さんと）



同期の友情

タカノ建設株式会社 取締役社長

高野 二 朗

大学を卒業した1985年は、日本が情報化社会へ大きく進展し始めた頃でした。私は当時情報通信事業を得意とし急成長していたインテックに入社しました。そして東京でシステムエンジニア（SE）として、社会人生活をスタートさせました。最初の配属先は金融システムを主に扱う部署で、私は IBM 社から受注した「金融機関対外ネットワーク開発プロジェクト」に参画しました。当時 IBM 社は大型汎用コンピューターで世界を席巻していました。金融業界も競うように新しいオンラインサービスに移行する時期でありました。開発したソフトウェアは、ATM を通じ各金融提携センターに接続し、自行と他行相互の現金取引を可能にする当時としては画期的な通信アプリケーションであったと記憶しています。経営学部出身の私が最初から SE としての仕事が難なくこなせるということは全くなく、コンピューター言語の習得、システムフローチャートの作成、英語版開発マニ

ュアルの解説など、最初の数年間はまさに悪戦苦闘の毎日でありました。SE と営業を経験した約 6 年間、短い在籍期間ではありましたがインテックの皆様には大変お世話になりました。特に25歳の時、当時若かりし頃の中尾常務（現当会特別顧問）から初めてお誘いを頂いた銀座サバティーニでの食事会は今でも忘れられません。振り返ってみますと丁度バブル期に入る頃、ハードワークな毎日ではありましたが、社会全体が前へ前へと進む活力ある時代であったと思います。その後結婚を機に建設業に身を転じましたが、当時経験したもののづくりの管理手法は、現在の仕事にも通じるどころ大でありました。あれから40年近く経過しましたが、新卒同期で入社した当時の仲間とは、今も定期的に懇親の場を設けています。若き日の楽しいよもやま話に花を咲かせ友情を深めています。（写真は当会事務局長経験者の山野昌道会員、同じく北竜次さんとの同期会でのスリーショット）